



月1回15日発行

発行人 金子 彰  
編集人 菊地一成

# 日教組 埼玉教組 ニュース

発行所 埼玉教職員組合 〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-13-10 ヤギシタビル4F TEL 048(823)4061 FAX 048(823)4062

(URL)http://www16.ocn.ne.jp/~stu/

(E-mail)stuurawa@peach.ocn.ne.jp



## 琵琶湖畔で第63次日教組全国教研開催

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立を!!



日教組第63次全国教研の様子

初日の24日、滋賀県立体育館で開かれた全体会では日教組加藤委員長が、現在の教育状況を『子どもへの権利』としての教育ではなく、『国家』の意志としての教育が前面に出ようとしている」と批判し、本次集会について「子どもたちの悩みや、哀しき、喜びが、そして教職員の苦悩や、前向きな意志、子どもとの関わりの中から見いだした喜びが感じられるような集会でありたい」と挨拶しました。さらに地元滋賀県教組大谷委員長、来賓の連合古賀会長、日本PTA全国協議会尾上会長他の挨拶に続き、日教組岡本書記長が「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立」をスローガンに、「憲法・子どもの権利条約を生かす教育改革を実現するためのたかな学びを保障するカリキュラムづくりをすすめるよう」をテーマにした本次教研の基調を提案・報告しました。

日教組第63次全国教研が日本最大の湖、琵琶湖畔にある滋賀県大津市を中心に1月24日から26日までの3日間にわたり開催されました。埼玉教組からは11月の埼玉教研集会で選出された4名の正会員（レポーター）の他、教文担当者、分科会司会者など3名併せて7名が参加しました。

### 『相互依存』の関係の創設を記念講演

次いで、オランダの教育事情に詳しい、教育・社会研究家のリヒテルズ直子さんが、「グローバル化時代における次世代育成ビジョン展開の課題」をテーマに見直す日本の学校教育」をテーマに記念講演をおこないました。リヒテルズさんは「子どもの個別の発達保障」「習うから学ぶ」「民主的シチズンシップ（市民主義）教育」「国際化教育」がすすめられているオランダの教育の現状を詳細に述べ、一方で、様々な教育問題に対し、応急の対処療法的対応をおこなうのみで機能不全に陥っている日本の学校教育の問題点を「明治以降の日本の学校教育がヨーロッパ近代初期の産業社会型競争教育の学校モデルから何も変わっていないこと」にあるととらえ、「日本人の

（日本の教育の）最大の弱点は『違いは豊かさ』ということを明治以降の学校教育で学んできていないこと」と明快に述べました。その上で「個別の発達保障」「協働・他者の受容・尊重」「社会性・情動性発達」などをキーワードに『相互依存』の関係を創りあげることの重要性を指摘するなど現場の教職員の視点から大いに共感できる講演でした。

午後からは分科会でのレポーター発表や討議が行われました。埼玉教組からは日本語分科会に南支部小池さん、児玉支部鳥羽さん、人権教育分科会に南支部岩崎さん、保健・体育分科会に児玉支部秋山さんが参加しました。また、特別分科会「子どもフォーラム」すべての子どもが主役！楽しい学校・学校について考えよう!!」をテーマに2日間にわたって開催され、ライブステージやシンポジウムが行われました。

### 羅針盤

「利益達成でランチ無料」という見出しで、某会社が業績に応じてランチの値段が変わる社員食堂を開設したとの新聞記事があった。業績連動型のランチは、1～3月期の営業利益が目標を上回れば、4月～6月は無料。目標を下回った場合は、通常の1食540円が個人負担になるという

まさかエサで釣るとはこのこと。まさか個人の営業成績に連動とまでは考えていないと思うのだが、競争に打ち勝つという思想が背後にあるのだろう。競争が奨励され、それが学校教育の中にも浸透しつつあるご時世だが、教化思想が色濃いとされる中国の古典の中にも、競争を否定的に述べている「小学・外篇」を紹介する。▶「学校は礼儀相先んずるの地にして、月々に之れをして争わ

しむるは、殊に教養の道に非ず」＝学校は礼儀を先として教える場所である。しかるに、学校において、毎月毎月成績の良し悪しを争わしめるという試験制度は、本来の目的とは違っており、教養の正しい道とは言えない。（諸橋轍次「中国古典名言辞典」）▶中国古典を読むと、教育について一人一人の違いに着目している向きも多々ある。とにもかくにも競争第一主義は排したいものだ。

## 全国教研参加者報告

全国教研の参加者報告を掲載します。

(残りの皆さんは次号) また、3月1日の還流集会で全参加者より詳細な報告がありますので、ぜひ参加して下さい。

### 教育研究全国集會に参加して



保健・体育分科会  
児玉・大里支部  
秋山 きみ子

全国教研は埼玉大会以来で、レポーターとしては初めての参加でした。初日は「僕たちは全員引きこもりだったんです。すてきな先生との出会いで今こうして歌っています。」という音楽グループの演奏から始まり、開会式の後、オランダ在住のリヒテルズ直子さんの副題「オランダから見直す日本の学校教育」という講演がありました。午後は、船で琵琶湖を約25分間移動し、思わぬ船旅。同席した福岡のレポーターとフッ化物の話で盛り上がりました。その日の午後から最終日の12時まで、琵琶湖大橋を朝夕バスで通過し、会場に缶詰になって北海道から沖縄までのレポート発表を聞き、討議をおこないました。

私は、集団フッ化物洗口が導入されて3年目を迎え、その間「集団フッ化物洗口を考える会」を中心に学習してきたことや職員や保護者へどう情報を伝えてきたかをレポートしました。保健分野26本のレポート中4本がフッ化物関連のもので、全国に広がっている様子が伺えました。共同研究者からは、「学校でのフッ化物洗口は、『緊急性がない』『感染性がない』ということから、フッ素反対運動をしてほしい。」という言葉をいただきました。討議や指導はとても勉強になりました。私は、以前学習会で学んだ「少しでも人のいのちに害ありて少しぐらいはよいというなよ」という足尾銅山事件の田中正造氏の言葉を、活動の柱にしたいと思っていましたが、更にそのことを強く思った教研集会でした。

### 学びあい、議論しあった3日間



日本語分科会  
南支部  
小池 隆夫

私は、日本語分科会のB(文学・言語)の分科会に参加しました。

初めに、言語教育の基礎である日本語文法について長崎、岩手から報告がありました。学校文法(橋本文法)の非科学性、非体系性を指摘し、子どもたちにかかる文法指導を行った実践です。研究を重ねているだけに、報告者は自信を持って全国に広めたいようですが、受験への対応や高校での古典文法との接続をどうするかという課題は残りました。また、この文法指導で子どもたちが読み取りを深め、言語活動を活性化しているかという点は、報告からは十分に伝わりませんでした。

その後、説明文や文学の読解をどうすすめるかという報告が続きました。私のレポートは「安易に心情を讀む行為が道徳的な「正解」にたどり着くことを批判し、より深い読みを追求するにはどうするかをテーマとした」レポートでした。関連して主題はどこにあるのか、どう読ませるかという熱い議論が展開され、日教組教研の醍醐味を感じました。3日間大変勉強になりましたが、一部参加者から自説に固執して、教え込む授業いわゆる「正解主義」が強く打ち出されたことには疑問を感じました。「国語」教室においては子どもが主人公であり、活発な意見交換の中から、それぞれの読みが成立していくような授業をめざしたいと思いました。休憩時間や夜の飲み会まで含めて、鳥取高教組や神奈川高教組の先生方、さらに、共同研究者の大学の先生方と議論できることも日教組教研の素晴らしさです。

### 分科会司会者として



社会科分科会  
南支部  
中條 克俊

四国の淡路島がすっぽりと入る日本一大きな琵琶湖。その琵琶湖を前にしておこなわれた社会科分科会の様子を司会者の目を通して報告します。

まず一番に懸念されることはレポート数の減少です。子どもたちの社会科嫌いよりも教員(小学校)の社会科授業嫌いが目立つという深刻な現場状況がレポート、共同研究者からも報告されました。社会科の根幹ともいえるべき地域学習、平和学習をどうやって進めればよいかわからないというのです。

しかし、さすがに教研参加者にはすぐれた実践が数多く見られました。中でも岩手(小)と北海道(中)の実践は地道かつダイナミックでした。岩手(小)「地域素材を生かした中学年社会科の実践」は、小さな複式学級の子どもたちが菜種を裏作にしているねぎ農家との交流・体験を通して成長していく姿を報告してくれました。「共に知り、共に悩み、共に考えた」と締めくくったレポートに教員の誠実な姿が映し出されて、たくさんの方から称賛の声があがりました。北海道(中)「閑上(ゆりあげ)の記憶」は、修学旅行で訪れた東日本大震災の被災地宮城県名取市閑上での生きた学習の実践報告です。単なる防災教育ではない、憲法学習も視野に入れた震災学習の提起でした。沖縄八重山地区の教科書採択問題、高校日本史教科書攻撃、教科書検定強化など社会科攻撃の増す現状にどのように対抗していくか今問われていることを確認して、次年度に向けて授業実践の更なる深まりをめざすことを誓いあいました。

# 今年も頑張らしましょう! 2014埼玉教組新春旗開き開催



1月11日、2014年埼玉教組新春旗開きが、さいたま市にあるときわ会館を会場に開催されました。飯田副委員長の開会の言葉の後、金子彰委員長が「困難の中ではあるが、組合員が力を合わせて今年も努力を継続しよう」という力のこもった挨拶がありました。

▲写真 各支部長の挨拶

来賓挨拶では、小林直哉連合埼玉会長、持田明彦埼玉県平和運動センター議長、山根隆治民主党前参議院議員、佐藤征治郎社民党県連代表から連帯

のスピーチがありました。続いて、高橋勇退教事務局長の音頭で高らかに乾杯。その後、秦哲美前県議、武井誠坂戸市議、高柳俊哉さいたま市議、西山幸代さいたま市議、岡野勉毛呂山町議、高橋剛川越市議、町田美津子本庄市議がそれぞれに熱のこもった決意表明を行いました。

また、埼玉高教組、自治労、県私鉄労組、J P 労組、水道労組、国労、建設埼玉など多くの労組をはじめ部落解放同盟県連、大韓国民団、朝鮮総連、埼玉朝鮮学校等、民主団体のみなさんからも連帯のご挨拶をいただいた後、ビンゴゲームのアトラクションに移行。青年部長の大矢さんや比企支部の岡島さんたちのリードで楽しいひと時を過ごしました。最後に各支部長からのたたく決意表明に続き、金子委員長による「団結頑張ろう」を元氣に行い、倉持副委員長による「梅・梅」というユーモアあふれる閉会挨拶でお開きとなりました。



## 公務員給与削減につながる「給与制度の見直し」を許すな!

### 人事院総裁あての要求書名を!

人事院は、昨年8月に「給与制度の総合の見直し」について早急に結論を得ると報告し、国家公務員給与水準の引き下げを検討するようになりました。とりわけ、地域間給与の見直しは民間賃金の低いところにあわせ俸給水準全体を2〜3%引き下げるとしています。これは地方公務員にも波及することが予想され、給与構造改革を勧告した05年の措置では人事院同様の平均4.8%引き下げを埼玉県人事委員会も勧告し実施されました。

今回は、何の根拠もなく民間賃金の低い12の県を取り出して比較した恣意的なやり方を含め、人事院の中立性にも疑問を抱かざるを得ない報告です。

人事院の一方的な勧告を許さず、私たちの生活を守るため、公務員連絡会が進める「給与制度の総合の見直しに関する」要請署名に全分会でとりくみよう重ねて要請します。

## 県教委が勤務時間適正化の姿勢を示す市町村服務担当者研修会を実施!

### 学期末事務が割り振り変更の対象に!

県教育委員会小中学校人事課は、市町村教委に対して、今年度の埼玉教組との確定交渉の確認に沿って、県内市町村教委の服務担当者を集めた研修会を1月17日に実施し、組合側と合意した内容を徹底する指導を行いました。

この研修では、厚労省から出されている「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関する基準」「過重労働による健康障害防止のための総合対策」、県教委が昨年度末に出した「市町村立小中学校の勤務時間の適正な把握について」の文書、すでに実施している市の出勤退社時間記録簿の例示、勤務状況調査の実施例、「年休・夏季休暇等の計画的使用の促進について」「ワークライフバランスの推進期間の設定について」等々を直接担当者に示し、全市町村で勤務時間を守らせるよう、また、やむをえず勤務時間を超過した場合は、回復措置を直ちに行う旨を指導しました。

また、県教委は、「本年1月から学期末の休業日において、成績処理における評価評定に関する事務処理、通信簿作成に関する事務処理、指導要録作成に関する事務処理については、調整(割り振り変更)の対象にする」との「週休日等の割り振り変更の運用について」の新たな通知を12月26日に発出しました。これも確定交渉での埼玉教組との確認事項です。

すべての職場でこのことを確認し、働きやすい職場づくりに努力していきましよう。



1.18年金問題学習会 日教組 渡辺事務職員部長を講師に

1月18日、比企教育会館を会場に埼玉教組事務職員部が主催した年金問題学習会が開催されました。当日は午前中におこなわれた事務職員部常任委員会のメンバーが引き続き参加した他、常任委員以外の事務職員や比企支部組合員など多数の参加者がありました。

講師にお迎えした、労安・時短対策部長でもある日教組渡辺春彦事務職員部長には主題であった年金問題の経緯や今後の見通しにとどまらず、公務員給与削減の問題や来年度の教育予算の概要など多岐にわたりお話をさせていただき、また、職場での労安体制の問題など参加者からの質問にも丁寧に答えいただきました。

参加者からは「中央情勢が良くわかり勉強になった」「今後もこのような会を催して欲しい」などの声が聞かれました。

辺野古基地強化を許すな!

沖縄との連帯を強め運動をすすめよう 1・29集会

1月29日、全電通労働会館ホールで平和フォーラムなどが主催する「沖縄を再び戦場にするな 辺野古の海の埋め立てを許さない」 辺野古新基地建設反対1・29集会が開催され、埼玉教組の組合員も参加しました。

集会では、主催者を代表して、福山真劫平和フォーラム代表が、1月19日の名護市長選での、稲嶺進さんの再選勝利を受け「安倍政権の戦争政策の暴走に名護市民がストップをかけ、民主主義の勝利をもたらせたい。」と挨拶。海上へり基地建設反対・平和と名護市政民主化を求める協議会共同代表の安次富浩さんと沖縄平和運動センター議長の山城博治

さんが、辺野古と沖縄の闘いの現状報告と訴えを行いました。

安次富さんは、「辺野古基地は普天間の代替えではない。巨大な揚陸艦が接岸できる埠頭の建設など、想像を超えた巨大な新基地建設の構想だ。」と述べ、山城さんは「仲井眞知事に県から去つてもらう闘いを始める」と熱く語りました。

さらに、沖縄等基地問題議員懇談会代表・近藤昭一衆議院議員、東京外国語大教授の西谷修さん、東京平和運動センターの中條貴仁さんがそれぞれ連帯挨拶をおこないました。今後、沖縄と連帯し沖縄の基地強化に反対する闘いを沖縄の県外においてさらに強めることが重要です。

町田美津子さん5選!

1月26日に実施された本庄市議会議員選挙において、日政連候補、連合埼玉推薦の町田美津子候補は、皆様のご支援を受け、連続第5期目の当選を果たすことが出来ました。ご支援くださいました皆様に心から感謝申し上げます。

町田美津子は今後とも埼玉教組や連合埼玉と連携して、子どもたちや市民のため、着実に努力を続けます。今後ともご支援ご協力賜りますようお願い致します。



倉持副委員長と握手する5選を果たした町田美津子さん

児玉地域人権教育研究集会
【とき】2月22日(土) 13:00~
【ところ】本庄中央公民館

2月~3月の活動・せりくみ
【2月】
18日(火) 日教組全国代表者会議
20日(木) 2014春季生活闘争・公共サービスキャンペーン 開始中央集会 13:30 イイノホール
22日(土) 全国組織部長会議 11:00 日教組本部
// 障害者の教育権を実現する学習会 14:00 さいたま市民会館うらわ
25日(火) 中央執行委員会㊸ 16:00
【3月】
1日(土) 第50回中央委員会 9:30
// 全国教研還流集会 13:30 県民健康センター
4日(火) 連合埼玉 春闘第2次行動 18:00 大宮駅
5日(水) 人権教育推進委員会 18:00 児玉教育会館
// 教育フォーラム幹事会 18:00 本部
11日(火) 中央執行委員会㊸ 16:00
// 狭山第3次再審闘争勝利埼玉集会 18:30 ときわ会館
15日(土) さよなら原発3.15集会 13:30 日比谷野音